

都市郊外における地域コミュニティ維持の要件と
交流拠点施設の役割に関する研究
—別府市内成地区・亀川地区の評価と
全国の就労継続支援B型施設の取り組みの傾向—

大分大学理工学部創生工学科建築学コース
建築・都市計画研究室
2057437 西村 凌

1. 研究の背景と目的

急速な都市化が進行してきた一方で、人口減少や過疎化などの問題が深刻化

地方における
都市郊外

若年層を中心に首都圏への人口流出により、地域の高齢化が加速
→自治活動の維持が困難になり、地域の交流機会も減少
地域の持続可能性の衰退^{1) 2)}

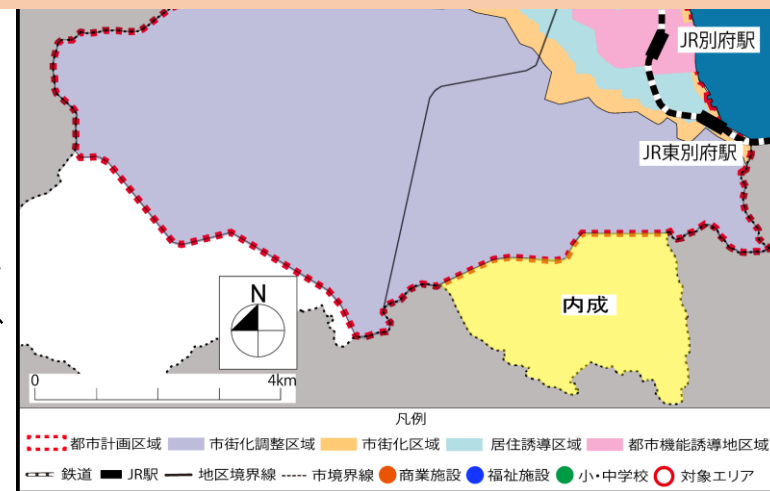
目的

- 都市郊外の地域課題を明らかにするため都市論などを用い、都市郊外における
サステイナブルコミュニティの構成要件
- 明らかにした課題を解決するために**効果的な取り組み**を明らかにする

別府市立地適正化計画を策定（2021）

→中心市街地への拠点施設の集約

別府市は「小さな拠点」形成に取り組んでいない
→多極ネットワークでのそれぞれの生活拠点で
課題



1)国土交通省、都市部、地方部における地域コミュニティの衰退

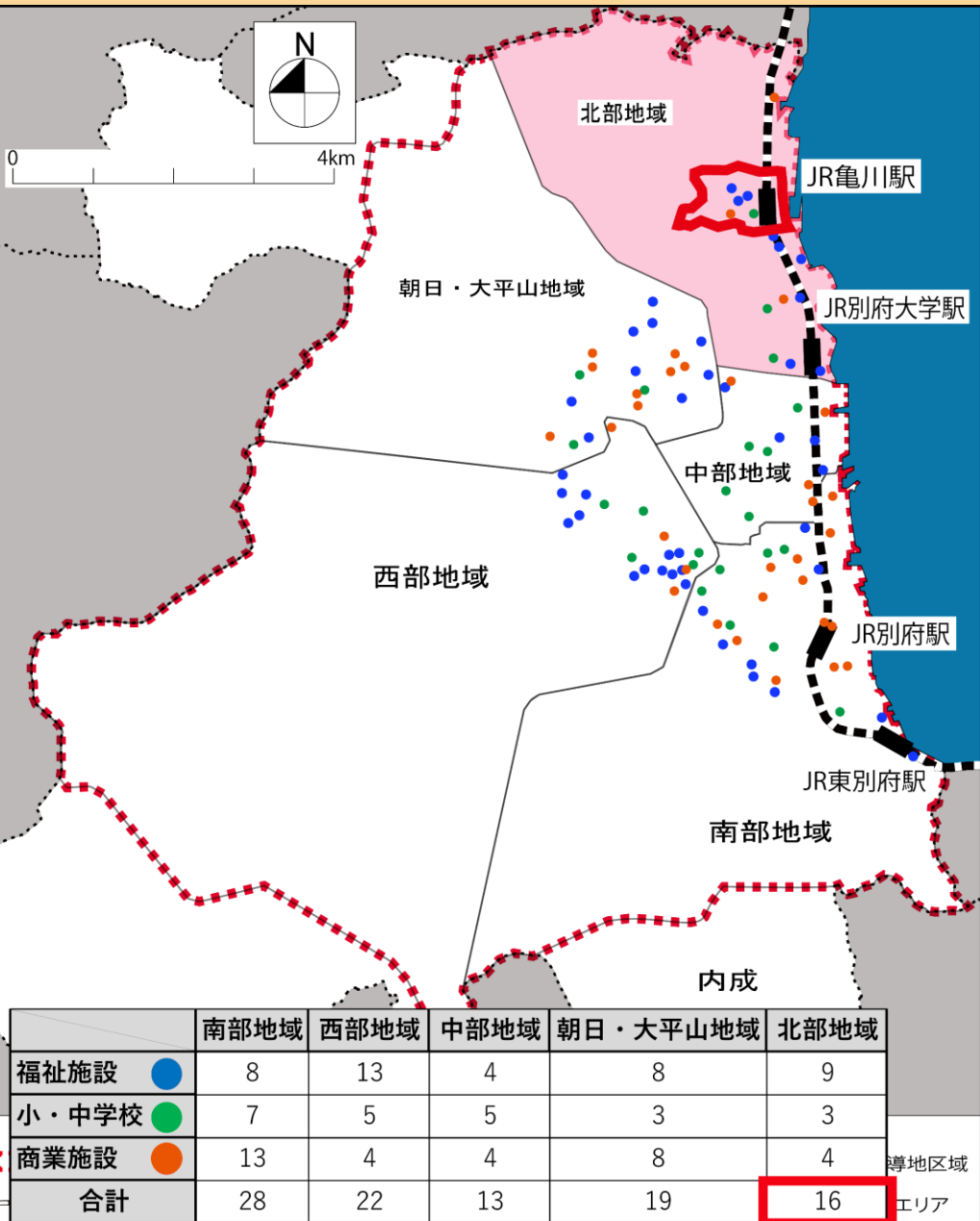
2)総務省国道政策局地方振興課（2007）「地域コミュニティの現状と問題（未定稿）」

3)国土交通省（2022）「都市構造の軸と拠点（コンパクト・プラス・ネットワーク）の高質化・多様化について」

4)内閣府地方創生推進事務局（2022）「小さな拠点の形成に関する実態調査」

図1 別府市内成の位置図

2. 対象地の概要



別府市都市計画マスタープランより

朝日・大平山地域

観光資源の活用や観光拠点の形成

中部地域

港整備と利活用による交流拠点の創出

西部地域

国立公園及び、温泉などの歴史的資源の整備

南部地域

別府温泉、浜脇温泉、ラクテンチ等を活かした観光文化拠点の形成

北部地域

JR亀川駅周辺の医療施設や福祉施設の既存の施設を整備することによる「多様な交流・賑わいの創出」

図2 都市計画MPにおける別府市の地域分けと拠点施設分布

3. 都市郊外におけるサステイナブルコミュニティの構成要件

表1 近代都市論と集落地理学の共通する要件

	項目	要件
近代都市論	交通	交通は業務地区を核として発達し、基本的な交通循環網は、環状と放射状の道路によって構成される。
	ゾーニング	市街地は放射型に構成され、中心部には地域の中心的な施設が位置されなければならない。また、主要な施設は拡張も考えられるべきである。
	マネジメント	土地は公有化すべきである。建物自体の悪化や機能の低下等には、その区域に対して何らかの行政的な調整を行うべきである。
	規模	適した人口規模や都市規模、もしくは密度を想定しなければならない。
	境界	都市は幹線道路で周辺を取り囲まれ、自然条件によって決定されるグリーンベルト等で他の地域との境界線を保持することが重要である。

市街地と中山間地域の両方の側面を持つ
都市郊外に注目
共通の項目が都市郊外に最低限必要な要件

集落地理学	土地	生活・生業が営まれている、宅地や農地及び漁場の土地利用である。
	境界	地形条件や字などの自然的に生まれた境界と、グリーンベルトや幹線道路などの人為的にうまれた境界がある。
	建物配置	宅地の上に配置された建物の位置や間口の位置などである。
	共有地	共有の場として利用される、神社・寺・墓地・集会施設などや公共の場として利用される、学校や役所などとそれらの敷地である。

共通する要件	交通計画	全体*3	交通循環網は、環状と放射状の道路で構成される。
		歩行圏*3	歩車分離を図るため、住区内に特別な道路体系を敷く。
	ゾーニング	中心性*3	地域の主要な建物は、地域の中心に配置されなければならない。また、新しい建物だけでは無く、伝統的な建物との混在も重要である。
		住民の利用*3	地域住民が気軽に利用できる施設であるべきである。
	オープン・スペース		*1誰もがいつでも利用でき、住民にとって魅力的な広場、オープン・スペースが整備されるべきである。 *2共有の場として利用される神社・集会施設などや公共の場として利用される学校や役所などとそれらの敷地である。
境界		*1都市は幹線道路で周辺を取り囲まれ、緑地等の自然条件によって決定されるグリーンベルト等で他の地域との境界を設ける必要がある。 *2地形条件や字などの自然発生的に生まれた境界と、グリーンベルトや幹線道路などの人的に生まれた境界である。	

近代都市論 7つ

- 「交通」
- 「ゾーニング」
- 「マネジメント」
- 「規模」
- 「境界」
- 「オープン・スペース」
- 「都市自足性」

集落地理学 5つ

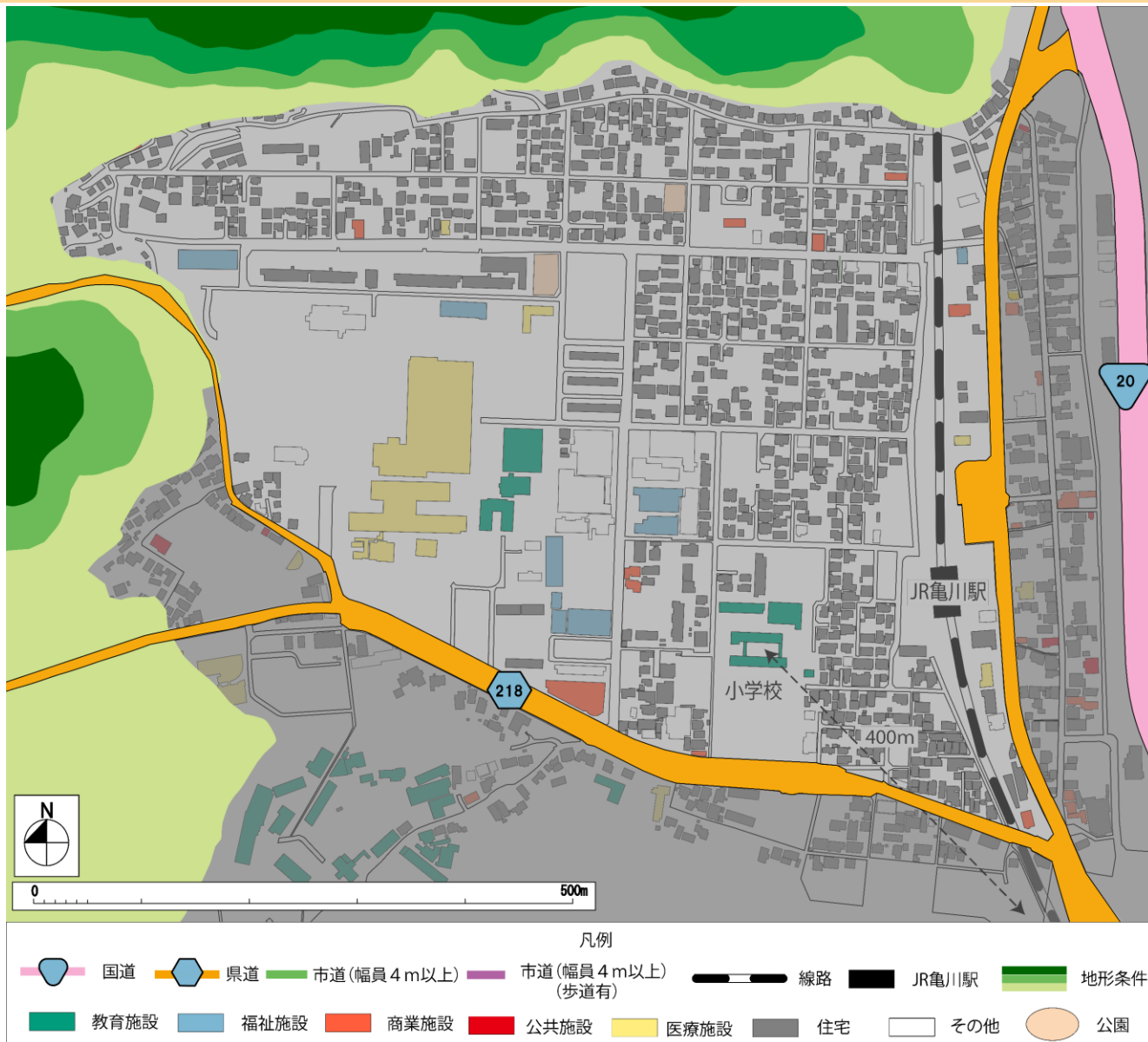
- 「交通網」
- 「土地」
- 「境界」
- 「建物配置」
- 「共有地」



共通の要件 4つ

- 「交通」
- 「ゾーニング」
- 「オープン・スペース」
- 「境界」

4. 亀川地区の評価



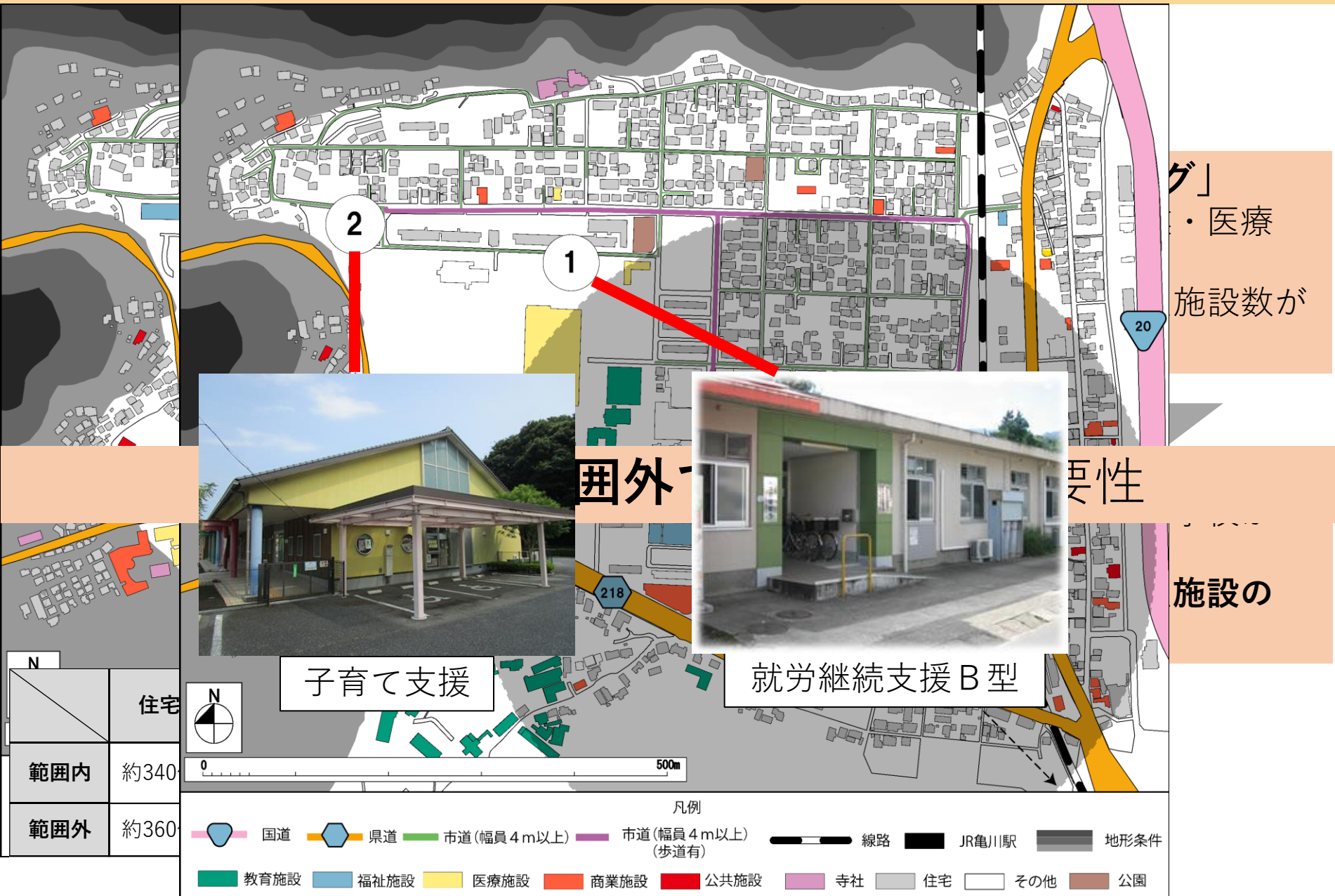
「境界」
地形と幹線道路に
囲まれている



他の地域と明確な境界
で分けられている

図3 対象エリアの地域構成

4. 亀川地区の評価



「グ」
・医療
施設数が

圏外

要性

施設の

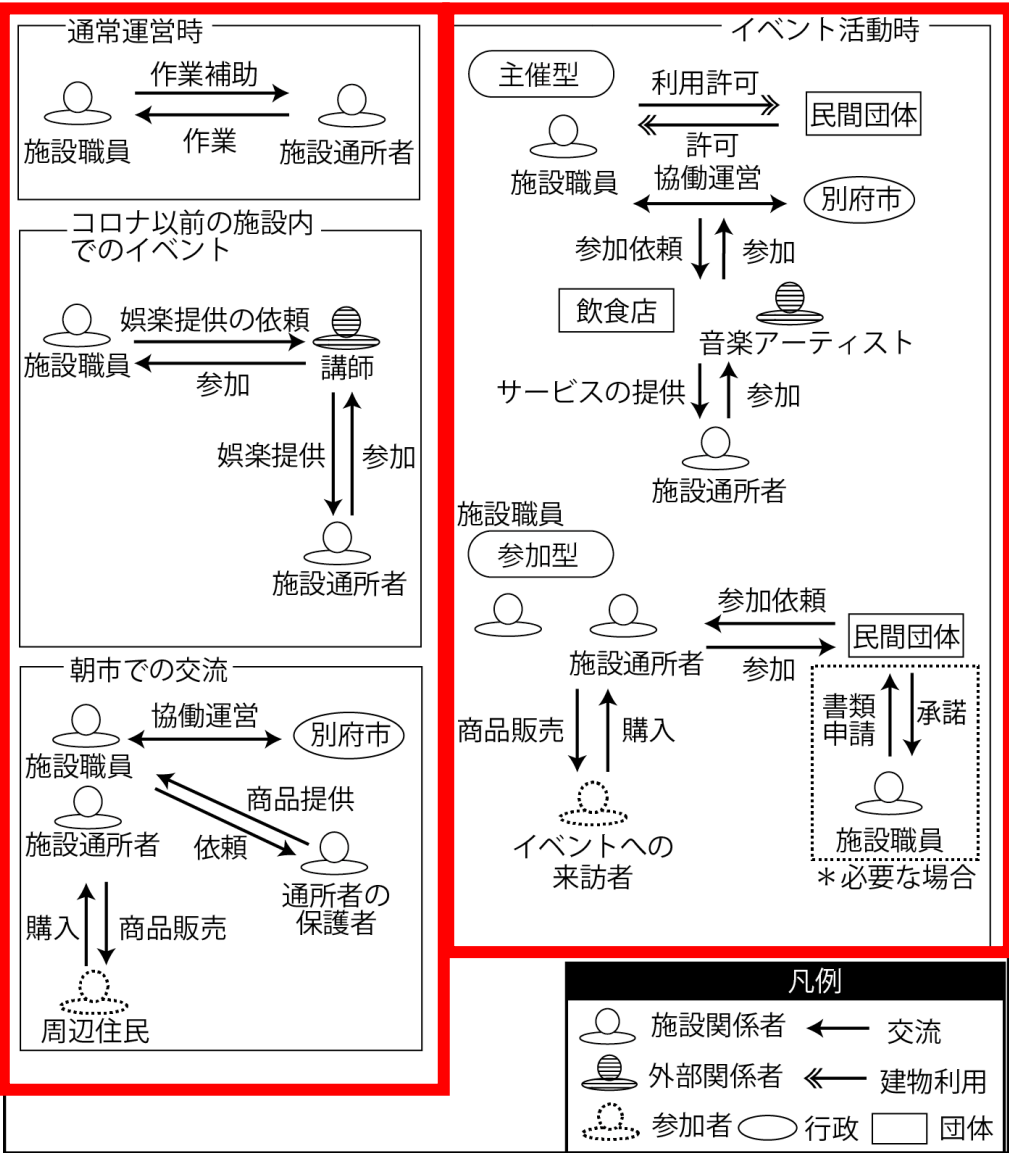
子育て支援

就労継続支援B型

図3 対象エリアの地域構成

5. 施設①へのヒアリング調査結果

施設①へのヒアリング調査で明らかになった通常運営時とイベント時の体制図を図3に示す



COVID-19以前

施設内に講師を招いてのイベント実施や施設での朝市の開催



施設通所者と地域住民などの施設外の人々との交流があった

現在

地域行事への参加や施設が年に1回主催するイベントの実施のみ



以前のよう施設周辺の住民との交流は確認できない

図4 施設①の運営時とイベント時の体制図

6. 他地域の参考事例の分析

表3 就労支援B型の立地と地域と関わりのある取り組み

事例	延べ床面積	飲食店の位置 ・施設内Ⅰ ・敷地内Ⅱ ・別敷地Ⅲ	地域住民が利用できるスペース (飲食店を含む)	地域と関わりを持つ取り組み				
				一般利用できる飲食店の所有	地域住民への宅配サービス	地域行事への参加	施設外就労	地域行事での商品の販売
1	600m ²	Ⅰ	○	○	無	○	○	○
2	751m ²	Ⅲ	○	○	○	○	無	○
3	571m ²	Ⅱ	○	無	○	○	無	○
4	1400m ²	Ⅲ	○	○	無	○	○	無
5	220m ²	Ⅲ	○	○	○	○	○	○
6	1700m ²	Ⅰ	○	○	無	○	無	○
7	1750m ²	Ⅰ	○	○	無	○	○	○
8	40m ²	Ⅲ	○	○	○	無	○	無
9	727m ²	Ⅲ	○	○	無	○	無	○
10	122m ²	Ⅲ	○	○	無	○	○	○
11	346m ²	無	無	無	○	○	無	○
12	313m ²	無	無	無	無	○	○	無
13	530m ²	Ⅲ	○	○	○	無	○	無
14	770m ²	Ⅰ	○	○	○	○	○	○
15	360m ²	Ⅰ	○	○	○	○	○	無
合計			13件	12件	8件	13件	10件	10件

地域とつながりを持つために必要な取り組みとして

- (1) 就労継続支援B型施設と併せて飲食店の併設 → 床面積600m²以上の場合
7件中4件は敷地内に飲食店が立地
- (2) 地域住民への食事の宅配サービス
- (3) 地域行事への参加
- (4) 施設利用者の施設外就労の実施

6. 総括

●都市郊外におけるサステイナブルコミュニティの構成要件

「**交通**」, 「**ゾーニング**」, 「**オープン・スペース**」, 「**境界**」の4つの項目がサステイナブルコミュニティの構成要件

●拠点施設の地域コミュニティ維持のために必要な取り組み

- (1) 就労継続支援B型施設以外の**飲食店の併設**
(床面積が大きい場合は敷地内に併設)
- (2) **地域住民への食事の宅配サービス**
- (3) **地域行事への参加**
- (4) 施設利用者の**施設外就労**の実施

今後の課題

収集した就労支援B型施設の取り組みの内容だけでなく,施設の空間上の工夫も明らかにする必要がある



別府市亀川地区で,地域交流を維持・促進するための提案を行い,取り組みの実践的な効果を確認することが今後の課題である